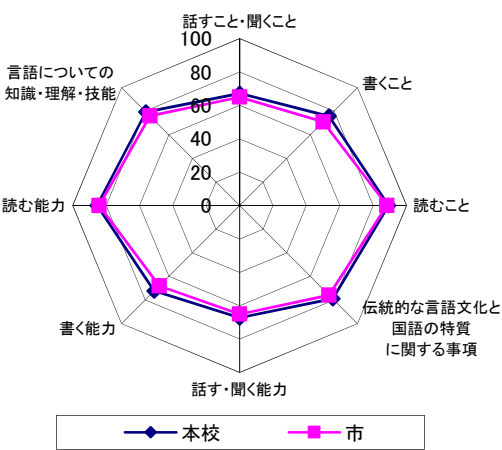


宇都宮市立海道小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	67.2	65.0	62.9
	書くこと	75.8	70.9	71.3
	読むこと	89.3	88.4	87.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	78.9	75.8	75.3
観点別	話す・聞く能力	67.2	65.0	62.9
	書く能力	72.2	68.0	68.0
	読む能力	85.4	84.2	82.8
	言語についての知識・理解・技能	79.4	75.9	75.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

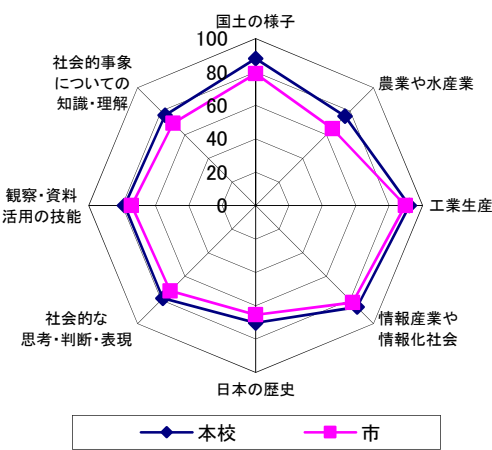
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は67.2%で、市の平均を2.2ポイント上回った。 ○話し手の意図を考えながら、話し合いの内容を書く問題の正答率は、市の正答率を8.8ポイント上回った。 ●司会者の役割を理解して計画的に話し合う内容を聞き取り、記述する問題の正答率が3.5ポイント下回った。	・各教科や総合的な学習、学級活動の話し合い活動などで、相手の話の内容を確認しながら自分の考えを工夫して分かりやすく伝える活動を継続していく。 ・教科書の「話す・聞く」単元では、聞き取りメモを活用して、話し手の意図を確認しながら聞くことや、自分の考えと比較する活動を設定していく。
書くこと	平均正答率は75.8%で、市の平均を4.9ポイント上回った。 ○自分の意見とその理由を区別して書く問題では、市の正答率を9.3ポイント上回り、100%の正答率だった。 ●資料の内容を読み取って文章に適切に書き表す問題は市の正答率を上回ったが、56.3%と低い正答率だった。	・作文指導や日記指導、視写プリント等を活用し、目的をもって文章を書く時間を意図的に取り、書くことに抵抗なく取り組むようにさせる。 ・作文を書くときには、全体の構成や段落ごとに書く内容を明確にして書くことや、資料の内容を読み取り自分の考えを適切に書くことができるように指導していく。
読むこと	平均正答率は89.3%で、市の平均を0.9ポイント上回った。 ○登場人物の心情を読み取る問題の正答率は、市の正答率を4.5ポイント上回った。 ●文章の表現の工夫を読み取る問題正答率が市の正答率を1.6ポイント下回った。	・物語の読み取りでは、文中にある情景描写や人物の心情が感じられる場面描写に注目させるなど、表現の工夫を意識する活動を行い、心情の変化を読み取る力を高めていく。 ・今後も、朝の読書の時間や週末土曜日の『うちどく』を積極的に奨励し、物語や説明文などの多用なジャンルの本に親しむ機会を増やしていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は78.9%で、市の平均を3.1ポイント上回った。 ○6学年配当漢字を読む問題の正答率は、100%だったが、5学年配当漢字を書く問題の正答率は62.5%と低かった。 ●言葉の学習では、国語辞典の使い方は理解しているが、文の構成(述語)についての理解につまりが見られる。	・漢字の二字熟語や三字熟語など、意味や用法を確認しながら学ぶ活動を取り入れ、語彙力を高めていく。 ・習熟を図るため、前学年までの内容を取り入れた小テストを実施し、漢字の読み書きの能力を高めていく。 ・主語述語を指定した短作文や、修飾語を活用した文章など、文の構成を学ぶ機会を増やしていく。

宇都宮市立海道小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	88.1	79.1	74.9
	農業や水産業	75.8	65.1	63.7
	工業生産	92.2	89.7	86.2
	情報産業や情報化社会	85.9	82.2	73.1
	日本の歴史	70.3	65.4	65.6
観点別	社会的な思考・判断・表現	78.5	72.2	69.0
	観察・資料活用の技能	78.5	74.3	69.2
	社会的事象についての知識・理解	76.6	69.9	69.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

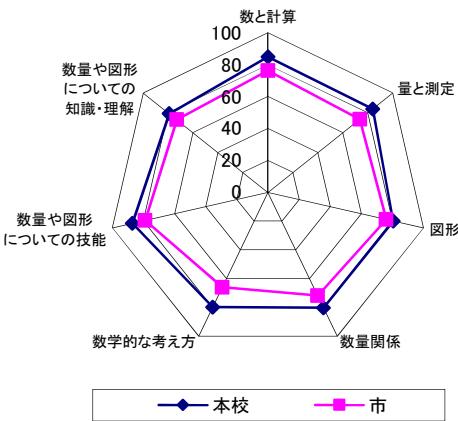
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	平均正答率は88.1%で、市の平均を9ポイント上回った。 ○世界の中の国土の問題は、高い正答率だった。特に、日本の周辺の海洋名について理解する問題の正答率は、市の正答率を13.9ポイント上回った。	・世界や日本の国土については、プリント等を繰り返し実施したり地図帳で調べたりすることにより、知識として定着するようにする。
農業や水産業	平均正答率は75.8%で、市の平均を10.7ポイント上回った。 ○食料自給率と食料輸入額の関係について複数の資料を読み取る問題の正答率は、市の正答率を8.2ポイント上回った。 ●国産と外国産の農作物の値段の違いは耕地面積や生産方法によるものであることを資料を読み取り表現する問題の正答率は、市の正答率よりは上回ったが50%と低い数値だった。	・日常生活の中で、日本の農業や水産業に関するニュースを積極的に取り上げることにより、身近に考える機会を増やす。 ・デジタル教材や資料集を活用しながら、資料やグラフを読み取る力を育てるとともに、社会的事象を調べたり考えたりする活動を意識的に多く取り入れ、思考力・判断力・表現力を育てるようにする。
工業生産	平均正答率は92.2%で、市の平均を2.5ポイント上回った。 ○工業製品の種類について理解する問題の正答率は93.8%で、市の正答率を4.8ポイント上回った。	・身の回りの工業製品が生活を支えていることを意識できるよう、日常生活の中で話題として取り上げたり授業で意識させたりしていく。
情報産業や情報化社会	平均正答率は85.9%で、市の平均を3.7ポイント上回った。 ○医療での情報ネットワークの利便性について、資料を読み取り考える問題の正答率は、市の正答率を2.7ポイント上回った。	・日常的に、情報産業や情報化社会に関するニュースを積極的に取り上げ、生活の中で情報がどのように生かされているか考える機会をもてるようにしていく。
日本の歴史	平均正答率は70.3%で、市の平均を4.9%上回った。 ○大仏造営を命じた聖武天皇の願いについて考える問題の正答率は96.9%で、市の正答率を11.4ポイント上回った。 ●織田信長による天下統一に向けた政策について、複数の資料を読み取り考える問題では、市の正答率を上回ったが、39.1%と低い正答率だった。	・歴史の学習への関心が高い児童が多いので、歴史的事実と人物のつながりや歴史的背景を総合的にとらえられるよう、指導の手立てを工夫する。 ・基礎基本の学力が定着するよう、今後も既習の学習を振り返る場を計画的に設け、知識の再構築を図るようにする。

宇都宮市立海道小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	84.9	76.2	72.9
	量と測定	83.9	73.6	70.6
	図形	80.5	76.0	72.1
	数量関係	80.2	71.8	66.9
観点別	数学的な考え方	79.8	65.9	58.0
	数量や図形についての技能	87.1	78.9	76.2
	数量や図形についての知識・理解	79.1	73.1	70.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

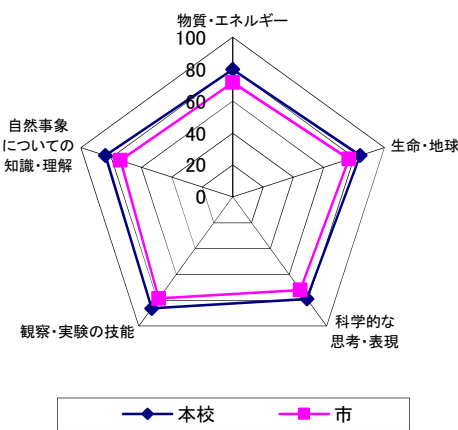
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は84.9%で、市の平均より8.7ポイント高い。 ○小数の除法の文章問題を表した図を選ぶ問題の正答率が100%で、市の平均より21.2ポイント高い。 ●0を含む整数を偶数と奇数に類別する問題の正答率が84.4%で、市の平均より2.3ポイント低い。	・基礎・基本について、計算ドリルを活用して繰り返し解いたり、ステップアップシートを活用して合格するまで何度も解いたりした成果が表れた。今後も、既習の内容の復習を宿題や朝の学習で行い、確実な定着を図るようにする。 ・数式を図や言葉を使って説明する活動をペアやグループで行ってきた成果が表れた。 ・知識の習得にむらが出ないように、一つ一つ丁寧に指導する必要がある。
量と測定	平均正答率は83.9%で、市の平均より10.3ポイント高い。 ○2人の作業の速さを比較し、判断の理由を説明する問題の正答率が87.5%で、市の平均より17.9ポイント高い。 ●1㎡あたりの人数を求める式を選ぶ問題の正答率が59.4%で、市の平均より28.9ポイント高いが、課題が見られる。	・単位量当たりの大きさについて、量の関係を画像や動画などを活用してイメージできるようにするとともに、数式と図(数直線)を結び付けるような活動を重点的に取り上げ、その確実な習得を図る。また、低学年から系統性をもって、意識的に指導にあたる必要がある。
図形	平均正答率は80.5%で、市の平均より4.5ポイント高い。 ○正六角形の作図方法から、正三角形の内角の大きさと、正六角形の内角の大きさを求める問題の正答率が84.4%で、市の平均より10.5ポイント高い。 ●線対称な図形について、対象の軸が何本か求める問題の正答率が65.6%で、市の平均より1.2ポイント低い。	・作図をする際に、全体的なイメージをとらえてから、どこかの値が分かれば作図できるかを考えたり、その値をどのようにして求めることができるかを考えたりした成果が表れた。引き続き、全体の見通しをとらえてから部分を考える指導を行っていきたい。 ・身に付けた知識を実生活の中で深めていけるように、日常生活の中に隠されている図形について取り上げる機会を増やす。
数量関係	平均正答率は80.2%で、市の平均より8.4ポイント高い。 ○帯グラフから割合を読み取り、比較量を求める問題の正答率が87.5%で、市の平均より14.5ポイント高い。 ●割合(比)を読み取り、足りない材料の量を求める問題の正答率が43.8%で、市の平均より14ポイント高いが、課題が見られる。	・実生活に関連した様々なグラフを読み取って、読み取ったことをペアやグループで共有し合うことによって、いろいろな見方と表現の仕方があることに気付かせていきたい。

宇都宮市立海道小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	79.8	71.6	67.4
	生命・地球	83.9	76.6	75.5
観点別	科学的な思考・表現	79.1	72.1	68.8
	観察・実験の技能	86.5	78.7	76.3
	自然事象についての知識・理解	83.8	73.9	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は79.8%で、市の平均より8.2ポイント高い。 ○振り子に関する問題の正答率は、全体的に市の平均を大きく上回っている。ふれはばを変えても振り子の周期は変わらないことについての問題の正答率は84.4%で、市の平均より25.5ポイント高い。 ●電磁石の性質を利用した道具についての問題の正答率は65.6%で、市の平均より12.3ポイント低い。	・実験方法を考えたり、考察したりする際に、条件統制を意識させて取り組んできた成果が表れた。 ・日常生活での疑問「なぜ」を大切にしながら、課題を日常の事象と結び付けて理解させるようにする。 ・仮説に基づいて実験に取り組ませるとともに、考察を自分の言葉で書くことで内容がしっかり身に付くようにする。
生命・地球	平均正答率は83.9%で、市の平均より7.3ポイント高い。 ○月と太陽に関する問題の正答率は、全体的に市の平均を上回っている。月の形から、太陽のある方位と観察した時刻を指摘する問題の正答率は81.3%で、市の平均より9.4ポイント高い。 ●唾液のはたらきを調べる実験の条件を修正する問題の正答率は46.9%で、市の平均より5.7ポイント低い。	・実験や観察では、実物を扱うと共に、動画や模型など視覚的に分かりやすい教材を用意し、理解を深めてきた成果が表れた。 ・予想や仮説を立てたり、実験方法を考えたりする際には、教科書に載っていることや常識などに固執せず、既習事項や生活経験を基に自由に考えさせ、それを実際に試すことにより、科学的な見方を多面的にとらえられるようにする。

宇都宮市立海道小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業における話し合い活動の充実	授業の話し合い活動や学び合い活動において、自分の意見の根拠を明確にして話す習慣や、友達の意見と比べて聞く学習を進めるようにする。	「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している」の質問に肯定的回答した児童の割合は、5つの学年が市の割合を上回った。また、「自分の考えを根拠をあげながら話す(3年以上)」については、全学年が市の割合を上回った。
インターネットを活用した調べ学習の実践	各教科や総合的な学習において、自分の課題を調べたり解決したりするために、インターネットを活用する機会を増やす。	「インターネットやパソコンを利用して学習に関する情報を得ている(3年以上)」の質問に肯定的回答した児童の割合は、全学年が市の割合を上回った。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	3・4年生は1日40分、5・6年生は1日60分以上を目標時間として行う。家庭学習は、宿題と自主学習とし、宿題は授業の復習内容のプリント類、自主学習は家庭学習ノートを活用して、毎日提出するように指導する。	「宿題はきちんとやっている(1・2年)」の肯定割合は100%、「自分で計画的を立てて家庭学習に取り組んでいる(3～6年)」に肯定的回答をした児童の割合は70%程度で、全学年が市の平均を上回った。
定着を図るための学習活動の充実	単元の導入時などに前学年までの内容を復習する機会を設定したり、家庭学習等で繰り返し取り組ませたりして、定着を図れるようにする。 また、視聴覚教材を活用したり進んで課題解決に取り組んだりするような学習活動を工夫していく。	6年生は、算数科に関してはかなり定着している。「数と計算」の領域では、市の平均正答率を上回っており、特に小数の除法の問題については、およそ20ポイント上回っていた。漢字の読み書きに関してはかなり定着しているが、5学年の漢字を書くことについては、市の平均正答率を下回っているものもあった。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方針

・市・県・国の学力調査の結果から、4～6年生の「話すこと・聞くこと」についての正答率は、おおむね市や国を上回っていた。学校全体の取組として、授業の話し合い活動や学び合い活動において、自分の意見の根拠を明確にして話す機会を多く取り入れてきた成果が表れていると考える。今後も継続して、話し合い活動を意図的に取り入れていく。「書くこと」については、平均正答率が上回っているが、課題もみられた。書くことに抵抗なく取り組むために、日記指導や視写プリント等を活用し、目的をもって文章を書く時間を意図的に取り入れるようにする。

・家庭学習について、「宿題はきちんとやっている」「自分で計画的を立てて家庭学習に取り組んでいる」に肯定的回答をした児童の割合は市の平均を上回っており、本校で実施している自主学習の成果が表れ、家庭学習の習慣化が図られてきていると考える。学力の定着を図るために、今後も継続し、宿題の内容や効果的な自主学習を提示するなどして、家庭と連携を取りながら家庭学習の充実に努めていきたい。